

長陽

エンジョイライフマガジン

年金受給者の生活情報誌

■特集 歩んで来た道、未来へと続く道

わたしの「人生ノート」の作り方

■さらめき インタビュー 慶應義塾大学教授・前宮城県知事

地方政治の旗手・浅野史郎さん 3期12年の戦い

■年金ニゴースト 社会保険労務士・坪屋昭久さん

夫の加給年金額と妻の振替加算

■はつちつ入門 クマドリムジリスオウケツのみなさん

熟年は、強く、おしゃべりに、カッコ良く

■歴史余滴 日本人より日本を愛した異国の人——ラフカディオ・ハーン

「小泉八雲」の誕生

2006

秋

熟年は、強く、おしやれに、カツコ良く

「テネシーワルツ」から「裕次郎」まで、お客さんがよろこんでくれるなら、音も見た目もビッグバンドをめざして、オールドジャズを届けます。

タマドリーム
ジャズオーケストラのみなさん



練習はバンドマスターの佐藤進さん（上の写真・手前）を中心に、音づくりへの情熱は、みな同じ。気づいた点を来年にぶつけ合う

日曜日の昼下がり、プラスが思い思いの音を奏でた。さあ、練習の始まりだ。本日のファーストナンバーは「シンギングウインド」。ソフトなメロディーが部屋を満たす。

タマドリームジャズオーケストラ(TDJ)は、東京・多摩市に本拠を置く、熟年ビッグバンド。サククス、トランペット、トロンボーン、そしてリズムパート(ピアノ、ギター、ベース、ドラム)からなる本格編成で、専属ホーカリストも在籍。メンバーの条件は50歳以上、平均年齢60歳、最高齢は84歳。結成6年目を迎え、年間15以上のステージをこなす売れっ子で、会員約400人を超えるファンクラブを擁している。メンバーはいずれも、多かれ少なかれ楽器の経験者だが、仕事に追われて遠ざかっていた。いまふたたび、初心に返って、すなおに音楽を楽しんでいる。



おたかい顔が見えるよう練習は車庫になって。休憩もそこそこに4時間の狭く間に過ぎる。みんな来てるボリュームあるハーモニー心地よい。1人では得られない、至福の時間

カッコ良くスイングジャズを 舞台は。ピンクのジャケツトで

バンドマスターの佐藤進さんに聞いた。

——バンド結成のきっかけは？

佐藤さん ぼくは今年60歳だけど、早期退職して、市民バンドに参加したの。でも、若い人向けの楽曲が多くて、ものたりない。「インザムード」や「A列車で行こう」なんていう昔懐かしいジャズを演りたい、と話してみたら同じ思いの仲間がけっこういて、その一方で、聴きたいと持っている人も多い。そこで、熟年による熟年のためのバンド、タマドリームジャズオーケストラを結成しました。

——女性のメンバーがいないのは、なぜ？

佐藤さん ぼくたちは、往年の男だけのビッグバンドにこだわりがあって……。シャープス&フラッツのようなね。そろいのジャケツトで難壇に立つ。おやじ世代の美学(笑)。

——年齢のほかに、メンバーの条件は……？

佐藤さん バンドが趣味のいちばんであること。楽器をやるのに、練習は欠かせない。でも音が大きいから、自宅ではままたらないでしよ。思い切り音の出せる毎週の練習日が実際に、楽しくてたまらないんだよ。

——楽団のレパートリーは……？

佐藤さん 「美空ひばり」「村田英雄」だっ





ステージはおしなべて揃いのピンクのジャケット



「いい音だね」「楽器がいいと違うねえ」ジョークに笑い声が絶えない

てやりますよ。なにより、お客さんによることでもらいたくて、ぼくらステージに立っているわけだから。老人ホームで演奏したことがあるけど、懐かしいメロディーに、よく動かない手でお年寄りがけんめいに拍手してくれるんです。音楽の力って、すごいですよ。

♪夜霧よ今夜もありがとう
どんな曲もリクエストしたい

—メンバー最高齢の方は？

一ノ瀬さん 84歳だよ。楽器は中学生のころ始めて70年。われながら、長いことやっているなあ(笑)。気胸ききょうを患って、ドクターストップで10年くらいサックスを吹けなくて、電子楽器でがまんしていたけれども、やっぱり生のほうがいいよ。年寄りだからって、へんな音は許されない。いい音出したいねえ。

—ソロを吹いてらっしゃいましたが……。
早坂さん(63歳) そりや、気持ちいいですよ(笑)。そのためにラッパを吹いているような

ものだからね。リタイヤしてまたトランペットを始めたなら、ここに誘われて。もうラッパ漬けの毎日ですよ。時間があれば、1日6〜7時間。最低1〜2時間はマウスピースを離さない。海外旅行にも持っていきました。若いころよりうまくなったと思うよ(笑)。

—練習では、いいたいことをいって……。

金谷さん(68歳) 自分のことは棚に上げてね(笑)。みんな、ジャズが好きで、たくさん聞いている世代だから耳はいいんだよ。こと、音楽に關しては遠慮しない。でも、めざしているものはいっしょだから。現役時代はバリアリの企業戦士で、土日もなく働いて、音楽のことを思うひまもなかった。その反動かな。

—音楽は、演奏するのも聴くのも健康にいいよ。
—遠くからいらっしゃっているそうで。

成田さん(68歳) 川越から毎週2時間かけて来ている。昨年、動脈瘤で3か月入院したけど、練習に來ちゃった(笑)。ベースが大好き。目立たないポジションだけど、プレイヤーの味付けしないで他の楽器が生きてくるんだ。おれのおかげなんだぞ、つてね(笑)。
—いま、楽器を始めたかと思っっている熟年が非常に多いそうですが、ひとこと……。
佐藤さん たとえ、好きな曲1曲でもいいんです、おおいに挑戦してみてください。ほんと、音楽は楽しいですよ。